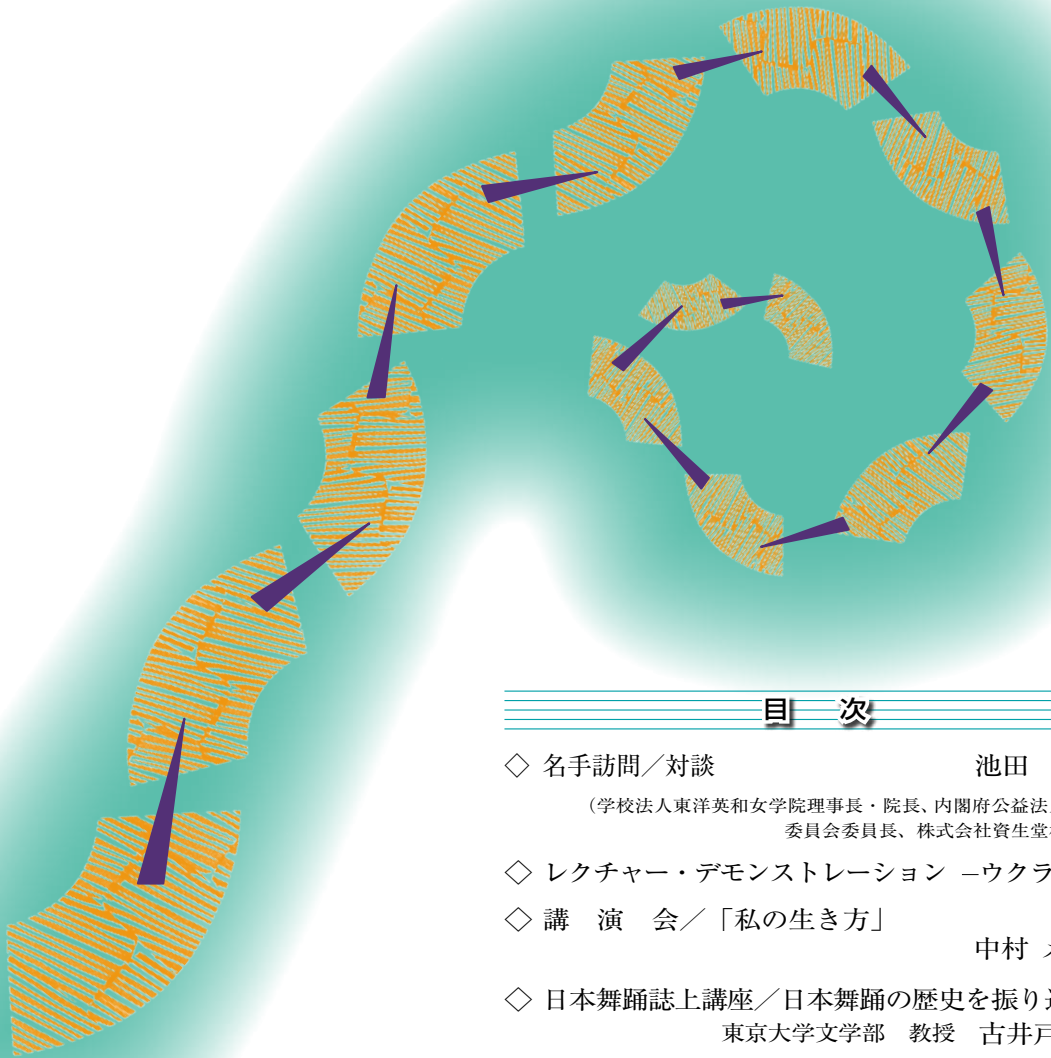


NBF

Information

2013・New Year

No.43



目次

- ◇ 名手訪問／対談 池田 守男
(学校法人東洋英和女学院理事長・院長、内閣府公益法人等認定
委員会委員長、株式会社資生堂相談役)
- ◇ レクチャー・デモンストレーション -ウクライナ-
- ◇ 講演会／「私の生き方」 中村 メイコ
- ◇ 日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る⑱
東京大学文学部 教授 古井戸 秀夫
- ◇ 特別会員芳名
- ◇ NBF 活動報告、行事予定、編集後記

名手 訪問

対談 池田 守 男 (学校法人東洋英和女学院理事長・院長、
内閣府公益法人等認定委員会委員長、株式会社資生堂相談役)
西川 扇 藏 (公益財団法人 日本舞踊振興財団 理事長)
[敬称略]



2012年11月7日
(於：学校法人東洋英和女学院院長室)

- 西川 今日は様々な経歴をお持ちで現在も多岐に亘る肩書きをお持ちの院長にいろいろとお話を伺えるのを楽しみにしておりました。
- 池田 こちらこそ西川先生には当学院でも何かとお世話になっております。
- 西川 そもそもこちらの学院とは昔からご縁が深く、私の娘や息子、そして現在は孫までがご指導賜っております。
- 池田 そうでしたね。うちの学院では日本舞踊や歌舞伎の世界のお子様が

- たくさん入学されています。
- 西川 それはやはりキリスト教に根付いた教育方針が徹底されていて、その長い歴史の中で信頼を得ているからなのでしょうね。
- 池田 幼児教育の概念はなかなか難しいのですが、まずは遊びを通じて、様々な経験を重ねていくことが大事だと考えています。
- 西川 幼いうちは何でも覚えられますからね。
- 池田 それが大きな柱になるのですが、そのうえに感性、感受性、人間性

を磨くことがさらに必要なことかと思っております。

西川 なるほど。

池田 私どもの東洋英和女学院では幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と、その年代に応じた人間教育を重要視しております。

西川 私立だからこそ可能なことなのでしょうね。

池田 私がこちらの学校に招かれたのが2005年です。その翌年に政府の教育再生会議の座長代理を仰せつかり、教育の議論を重ねてまいりました。

西川 安倍内閣の時でしたね。

池田 当時は、「ゆとり教育」が導入されていましたが、必ずしもうまく機能していないところがありました。

西川 ゆとり教育は本来的なことから離れて違った方向に進んでいました。

池田 知識の習得と同時に、人格、人間性を深める教育を推進する必要があります。

西川 ゆとり教育は根深い問題でした。

池田 いじめの問題もその頃から起こりはじめたように思います。

西川 未だに片付かない大問題だと思います。

池田 その件でもいろいろと提言させていただきました。

西川 何とか解決して欲しいと願っております。

池田 私どもの東洋英和の教育は人間教育、人格教育です。人格は幼いうちから培っていかなければいけないと考えております。

西川 仰るとおりだと思います。

池田 そのためには情操教育が欠かせません。

西川 先ほど話された感性を磨くということに繋がります。

池田 そのために、日本の伝統芸術の果たす役割は大きいものがあります。

西川 古来伝わってきているものですから普遍性があります。

池田 長じて国際人といわれるような方は日本の伝統文化をきちんと身につけています。

西川



自国のことを把握していないと国際人とは認められません。私どももたびたび外国を訪問しております

すので真の国際人と言われるように努力をしなければいけません。ところで院長のお生まれはどちらでしょうか。

池田 私は香川県の高松で生を受けました。

西川 育ったのも高松ですか。

池田 はい、高校を卒業するまでおりました。

西川 ということは後年東京神学大学に進まれたと伺っておりますので、いわゆる宗教との出会いはまだ高松にいらっしゃる頃のことですね。

池田 まあ出会いというほどの大仰なものでなくごく自然に接したのです。

西川 自然にですか。

池田 つまり四国では真言宗八十八ヶ所のお遍路さんが日常的に年中行き交ってまして、我が家にも多くの方が見えていました。

西川 四国ならではの風物ですね。

池田 私の祖父母がお遍路さんをお接待している姿を見て育ちましたので、人というものはお互いが助け合い支えあっていくことが大切であると、ごく自然に感じていました。

西川 おじいさまやおばあさまの行動から学ばれたわけですね。素晴らしいことだと思います。

池田



もともと欧米文化への憧れがあったのですが、地元にいるキリスト教の宣教師に出会ったのをきっかけに、ますます興味が深まりました。そのような折、高松と岡山県の宇野を結ぶ連絡船の事故があり、同年代の子どもたちが亡くなりました。この事故に大きなショックを受け、「生と死」について、深く考えるようになり、よりキリスト教に傾倒していきました。そして洗礼を受け、将来は牧師になろうと決意し、東京神学大学に進むことになりました。

西川 感受性の強い時期に大きな影響を受けられたのでしょうか。

池田 大学で牧師になるため、勉強をしていましたが、当時は日米安保条約をめぐる、世の中が騒然としている時期でした。そうした中、このまま牧師になることが正しいのか、少し社会との接点を見出してからでも遅くはないだろう、と考えた私は社会に出ることにしました。

西川 資生堂との出会いになるわけですね。

池田 縁があって資生堂に就職いたしました。仕事をさせていただくのであれば、生活に実感が伴っているような産業を選びたいと考えていました。さらにいえば文化的な香りがする職場を望んでおりました。資生堂は物を作って販売するメーカーですが、文化を大切にしている会社です。

西川 当時からですか。

池田 はい。販売する化粧品にしてもただ売ればいいと考えるのではなく、それを使った女性がより健康

で美しく、そして心が豊になることを望んでいたのです。

西川 なるほど。

池田 ですから、資生堂で働くということは、「経済的行為ではなく文化的行為」との思いを抱くようになりました。

西川 企業メセナ協議会では福原名誉会長が会を牽引されていらっしゃるし、資生堂は一般の方からも文化事業を積極的に遂行していると感じているでしょう。

池田 入社すると原則として3年くらいは販売第一線で業務を行うのですが、私の場合は最初から秘書室に配属されました。会長や社長をはじめとする役員に仕えサポートする仕事を入社以来一貫して行ってきました。

西川 企業には定期的な人事異動がつきものではないのでしょうか。

池田 そうでしょうね。しかし先ほど申し上げました私の生まれ育った環境や自分の学んできたことを加味して考えてみますと、秘書の仕事は私の天命であると感じました。

西川 それはどのようなことでしょうか。

池田 つまり自分が身近にいる人に何か役に立つことはないだろうかといつも考えておりましたし、そのことを追求していくことが自分の生きる道であると、信念をもっていましたから、まさにその思いと仕事がフィットしているということです。

西川 やはり郷里における出会いや勉強されたことが大きく影響しているのだと感じます。

池田 企業活動は、自社の利益を求めただけでなく、文化を育て、さらには公益に資するものでなければならぬ、そのような考えを持ちながら日々過ごしておりました。今から30数年ほど前、私と同郷の大

先輩である大平正芳さんが総理大臣になられた際、大平さんは「これからは経済の中心の時代から文化中心の時代にしなければならない」、と仰っていました。つまり、「モノからココロの時代」です。

西川 素晴らしいメッセージですね。
池田 大平さんほど文化の重要性を主張された総理大臣はいなかったように思います。

20世紀後半のバブル経済の崩壊から、日本経済は低迷しております。このような時代にあっては、経済を活性化させることが重要です。しかし、社会を充実させ、国民生活を豊かにするためには、経済の発展と共に、文化が大変大きな役割を果たします。文化は私たちの生活に彩を与えてくれます。

だから先生のところのように積極的に海外で日本舞踊公演をなさり、伝統的な文化を伝承していくことはとても大切なことだと思います。

西川 ありがとうございます。
日本は戦後経済で復興を果たしましたから、経済が重要視されてきました。

池田 経済的、物質的な豊かさを求め続けてきたことは仕方ありませんが、やはり文化にも情熱を注いで欲しいですね。

西川 しかし現在これだけ経済が低迷していますとなかなか文化を強調するのがはばかれる風潮もあるようです。

池田 文化の時代というのは心を大切にすることです。常にその思いを持ち、行動してほしいと思います。

西川 全く同感でございます。

池田 私も細かな知識は持ち合わせておりませんが様々な伝統文化に興味

がございます、日本舞踊はもとより歌舞伎や文楽、能・狂言等も時間を見つけて鑑賞しております。内容を深く理解はできないまでもその場にいるだけで心が穏やかになるような気がします。

西川 とてもうれしく思います。
池田 少し話を戻しますが、生涯一秘書で貫く気持ちでおりましたが、社長に指名を受けたときは青天の霹靂でした。

西川 突然だったのですね。
池田 当時私は副社長で3年がかりの大規模な経営改革を行う準備に忙殺されておりました。そんな折に福原義春会長と弦間明社長に呼ばれて次の社長に指名されました。

今までは仕え、支えるということをして続けてきましたのに、全く立場が逆になるわけですから驚きました。

上に立って俯瞰してみるということは私のそれまでの越し方からは考えて違うのではないかと思いました。

西川 相当お悩みになられたことでしょう。

池田 そんな折、日曜礼拝に通っている銀座教会に新渡戸稲造さんの書がありまして「Be just, and fear not」と書かれておりました。これはシェークスピアの『ヘンリー八世』の戯曲の



- 中の一節です。「正義を貫け、恐れることなかれ」の意味ですが、この言葉が自分に言われているように感じました。「社長になることも天命なのだ、引き受けよう」と決意したのです。
- 西川** 新渡戸稲造の書が後押しされたということなのでしょう。
- 池田** 社長になればトップダウンの姿勢でリーダーシップを示すことが必要だと思っていました。しかし、思いを巡らす中で、それだけではないという思いに至りました。つまり社長は会社全体を支える存在である、そうであるならば社長として全社員に仕え全社員を支えることが使命ではないか、と。
- 西川** なるほど。実際に行う仕事や立場は違っても院長の生きる道、信念に合ったことだったのですね。
- 池田** はい
- 西川** さて、私が理事長を務めさせていただいている日本舞踊振興財団は、昨年春に公益財団法人として認定を受けました。
- 池田** それは何よりでございました。私も公益認定等委員会の役職を担っておりまして、内閣府で扱っている法人が6千件ほどございます。
- 西川** かなりの数になるのですね。
- 池田** そうですね。これに地方自治体を入れますとでは2万5千件ほどになります。それぞれが使命・役割を持ち、公益活動に取り組んでいただきたいと思います。
- 西川** おかげさまで一昨年に申請をしてから半年余りを経て移行させていただきました。
- 池田** 移行の期限は2013年11月末です。まだ申請されていない法人には、早めの申請をお願いしています。先生のところは比較的早く済まされました。
- 西川** 結構手続きが面倒のようでした。
- 池田** 公益目的事業支出が全支出の50%以上等いくつかの項目をクリアしないといけないので、それなりにハードルは高いのですが、こと芸術団体の法人は公益になっていただき幅広く活動を続けていって欲しいと思います。
- 西川** 今まで以上に重い責務を感じております。ますます充実した活動を展開していきたいと考えております。
- 池田** また毎年2月には私どもの幼稚園にお出ましいただきまして日本舞踊教室を開催していただき感謝いたしております。
- 西川** 幼児期から日本の伝統に接することが情操教育としても相応しいのではないかと考えており、設立以来続けさせていただいております。
- 池田** 是非私も拝見させていただくつもりです。楽しみにしております。
- 西川** こちらこそどうぞよろしくお願ひ申し上げます。本日は有意義なお時間をいただきどうもありがとうございます。

池田 守男氏プロフィール

1936年 香川県高松市に生まれる。
 1961年 東京神学大学神学部卒業。
 株式会社資生堂に入社。
 社長・会長を経て、現在は相談役。
 2005年 東洋英和女学院理事長就任。(現在に至る)
 2007年 東洋英和女学院院長就任。(現在に至る)
 内閣府公益認定等委員会委員長就任。(現在に至る)
 教育再生会議座長代理、経団連評議員会副議長、
 同少子化対策委員会委員長、日本商工会議所副会

頭、日本商工会議所特別顧問など多数の公職を歴任。
 教育関係ではお茶の水女子大学経営協議会委員、
 国際基督教大学理事、女子学院評議員など。
 「新渡戸・南原賞」受賞(2006年)。
 著書に『サーバント・リーダーシップ入門』(神戸大学大学院教授金井壽宏氏との共著)がある。
 人生訓は「与ふるは受くるより幸ひなり」。